

児童発達支援事業に係る自己評価結果公表用

公表日：令和5年2月

事業所名：児童発達支援センターかしのき園 指定日通園(親子)

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価				保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	同じ空間で一緒に遊ぶ経験ができるよう、十分な換気に気を付けながら工夫していく。	16				かしのき園での療育の方法は、決まった時間・決まった場所で行うことを前提として考えている。
			・可能なら部屋内だけでなく、外遊びの活動も何回かあれば嬉しい。				
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	原則、担当職員が1対1で療育しているが、必要に応じ、他の職員が入ることもある。 言語聴覚士がいない現状のため、他の施設の紹介などを行っている。又、保護者の希望があれば個別で検討する。	15			1	職員の体調などにより一時期職員の数が減っていると感じられたかもしれないが、配置基準に沿った適正な人員を配置している。
			・1対1の療育は問題ないですが、職員1名が全児童を担当・把握するのは負担が大きすぎると思います。				
3 生活空間は、本人にわかりやすい環境になっているか。また、障害の特性に応じ、設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	同じ建物の中に2つの施設があるが、境界を設けていない。しかし屋外と屋内や、1階と2階という境界を意識できるように言葉で伝えながら、玄関などの共有スペースで交流があることが双方の療育にとってプラスになると考えている。	16				その都度子どもに合わせて分かり易く環境を整備し、視覚支援を行っている。 個別と集団で部屋を変え、子どもに分かり易くしている。	
4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか		16					

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価				保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	職員全員で意見を出し合い改善すべきことは速やかに改善している。	/				継続して取り組んでいく。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	必要な時は実施を検討する。	/				必要な時は実施を検討する。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	積極的に推進している。	/				継続して取り組んでいく。
適切な支援の提供	1 子どもと保護者のニーズや課題がしっかりと分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	保護者や子どものニーズに対応できるよう、定期的に現状の評価を行い、必要に応じて見直す	15	1			モニタリングを行い、その都度支援計画を立てている。
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援計画の作成	必要に応じ作成している。	/				継続して取り組んでいく。
	3 児童発達支援計画には、子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	支援計画を作成する際に、保護者の意見等を十分お聞きし、具体的な支援方法に反映するように努めていく	15			1	入園時期により計画を立てる時期が異なっているが、定期的にモニタリングを行い、計画を見直している。
	4 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	定期的に保護者の方と支援計画の内容と現状についての評価をする機会を持っている	14	1		1	入園時期により計画を立てる時期が異なっているが、定期的にモニタリングを行い、計画を見直している。
	5 チーム全体での活動プログラムの立案	担当者を中心に全員で立案している。	/				継続して取り組んでいく。
	6 平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	休日の過ごし方を保護者と共に考える支援を行っている。	/				継続して取り組んでいく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価				保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
	7	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	個々の発達段階に応じて必要であればプログラムの変更を考えていく。 集団療育では設定されたプログラムが一定であることで安心感があり、その中で理解を深めることができるというメリットもあり、メンバーの状況を考慮しながら工夫していく。	11	1	1	2	療育を進めていく中で充分支援内容が達成され、必要がなくなってきたと思われる場合は次のステップを保護者と話し合う。
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	必要に応じ確認している、	/				継続して取り組んでいく。
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	その都度行っている。	/				継続して取り組んでいく。
	10	日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	日々記録を取り定期的に検証している。	/				継続して取り組んでいく。
	11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	年間2～3回のモニタリング会議を持ち、必要に応じ見直している。	/				継続して取り組んでいく。
関係行政機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へ参画	相談事業所の求めに応じ行っている。	/				継続して取り組んでいく。
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	/	/				/
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	/	/				/
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	保護者の希望により連携を行っている。	/				継続して取り組んでいく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価				保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、	/				継続して取り組んでいく。
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進					/
	7	児童発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	7	2	3	4	
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	/				行事を行う予定がない。
1	支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	16					
	2	児童発達支援計画を示しながら、支援内容の説明がなされたか	15			1	支援計画をお渡しする時に説明し、サインをいただいている。
	3	保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)が行われているか	/				継続して取り組んでいく。
		保護者同室の療育の中で、保護者の方にアドバイスしていることがペアレントトレーニングの一環と考えておこなっている。 療育中に話づらい内容であったり、別に相談がある場合はその都度申し出てもらい時間をとって電話や来園で対応する。	/				

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価				保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
保護者への説明等	4	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	保護者同室の療育であり、その目的の一つが子どもの現状の共通理解と考え、子どもの前で話し合えるよう考慮している	15	1			継続して取り組んでいく。
	5	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	療育時間内に保護者の相談に応じているが、子どもと一緒にいない方がよい場合は、別の日程を設定したり、電話での相談を行う	13	1		2	継続して取り組んでいく。
	6	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	保護者会などは設置する予定はない。 密集を避けて待合室も他家族と一緒にいる時間が少ないようにしている現状。 時期をみて保護者向けの講演会などができればと思っている。	3	3	3	6	保護者会などの設置予定はないが、保護者向けの講演会や勉強会など、開催できればと思っている。 現状はコロナ禍で難しい状況である。
	7	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	保護者からの相談や苦情にはできるだけ速やかに対応するようにしている。	9			6	継続して取り組んでいく。
	8	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	グループ療育だけでは個々に充分なお話ができないため、檜の木園では必ず個別療育を基本で受けて頂くようにしている。	15				継続して取り組んでいく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価				保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
	9	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定などについて、子どもや保護者に対して発信しているか	社会福祉法人榎の木会のホームページに情報等を掲載。施設待合室の掲示板など見やすいところに随時必要な情報を掲示している。	8			7	これからも見やすい掲示を心がける。
	10	個人情報の取扱いに十分注意されているか	個人情報取扱規定に基づき、秘密の保持に努めている。	14			2	秘密保持に心がけて細心の注意を払っている。
非常時等の対応	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	保護者へ掲示などを通じ知らせる。	14			2	これから分かりやすい掲示に努めていく。
	2	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	時間帯が合えば訓練への参加を呼びかけていく。	7	1		8	時間帯が合えば訓練への参加を呼びかけていく。 ・一度も参加はしていない
	3	虐待を防止するための職員研修機会の確保等の適切な対応		/				
	4	やむを得ず身体的拘束を行う場合における組織的な決定と子どもや保護者に事前に十分に説明、了承を得たうえでの児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	保護者同伴の療育であり、現状では必要な場面はない。職員が保護者へ虐待について指導するうえで必要な研修を行っている。	/				継続して取り組んでいく。
	5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	食事等の提供はない。	/				必要な時は実施する。
	6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	ヒヤリハットの事例があった場合は、速やかに職員間で共有し対処するようにしている。	/				継続して取り組んでいく。